

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**



(1500円)

昭和46年11月27日

昭和46年11月30日差出

特許庁長官 殿

1. 考案の名称

ヨウフウキ セイミマ
ヘッドホーン用通気性耳当て

2. 考案者

実用新案登録出願人に同じ

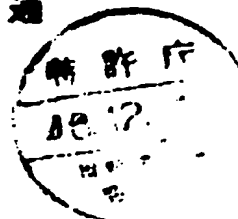
3. 実用新案登録出願人

スズ シ センバシロチヨウ
静岡県沼津市千本緑町1910

タ ナ フ シ
田 中 信 吉 (印)

4. 添附書類の目録

(1)	明細書	1	通
(2)	図面	1	通
(3)	願書副本	1	通



48-68523-01

明 細 書

1 考案の名称

ヘッドホン用通気性耳当て

2 実用新案登録請求の範囲

通気性及び弾力性を有する発泡樹脂材で構成される円板形耳当て本体(1)の正面及び側面を、伸縮性布(2)により収縮力を保持させて被覆し、該伸縮性布(2)の端末(3)と、前記円板形耳当て本体(1)の背面に重ね合わせた円環形の柔軟性嵌着ツバ(4)の外縁(5)とを加熱溶着又は縫合した構造になるヘッドホン用通気性耳当て。

3 考案の詳細な説明

本考案によるヘッドホン用通気性耳当ては、通気性と弾力性を有する発泡樹脂材で構成される円板形耳当て本体の正面及び側面を、伸縮性布で収縮力を保持させて被覆し、この伸縮性布の端末と、前記円板形耳当て本体の背面に重ね合わせた円環形の柔軟性嵌着ツバの外縁とを加熱溶着又は縫合した構造の耳当てに関する。

従来、ヘッドホン用耳当ては多種あるが、い

づれも弾力性を有する発泡樹脂材全体を、通気性及び吸汗性のないビニールシート等で被覆し、ヘッドホーンとの嵌着部を別個に設けたものや、発泡樹脂材を複雑に被覆して嵌着部を構成した構造のものが多かった。

従つて通気性、吸汗性に之しく弾力性をも削減し、かつ製造工程が複雑化したので実用上及び生産上種々の欠点を有していた。

3) 本考案による耳当ては、従来品の欠点を改良し、かつ生産工程を効率化するものである。

以下図面により本考案による耳当てを説明する。第1図は本考案による耳当ての側断面図、第2図は外視図を示し、通気性及び弾力性を有する発泡樹脂材で構成される円板形耳当て本体(1)の正面に伸縮性布(2)を重ね合わせ、その端部で更に耳当て本体(1)の全側面を被覆し、これと別に耳当て本体(1)の背面に円環形の柔軟性嵌着ツバ(4)を重ね合わせ、前記の伸縮性布(2)を伸した状態でその端末(3)と嵌着ツバ(4)の外縁(5)とを加熱溶着又は縫合して連結する。従つて伸縮性布(2)は常時収縮力が作用

するから、耳当て本体(1)の角は圧縮され、角は曲線を形成する。更に耳当て本体(1)の背面と嵌着ツバ(4)との間は接合されていないので、耳当て本体(1)の弾力性の利用によりヘッドホーンの嵌着用間隙(6)が形成される。

この場合、伸縮性布(2)と嵌着ツバ(4)とを加熱溶着して接着させるときは、嵌着ツバ(4)は熱可塑性の柔軟性樹脂を主材又は表面処理材とした厚手シートを使用して熱溶着を容易にする。

前記円板形耳当て本体(1)の形状は、第3図に示す如く円板形の発泡樹脂材に種々加工する事任意である。即ち(31)図は孔なしの円板形、(32)図は円環形、(33)図は細孔を多数穿設した円板形の実施例である。これら孔(8)は通気性を更に顯著にする効果を有する。

前述の伸縮性布(2)の端末(3)と、嵌着ツバ(4)の外縁⁽⁵⁾との接着又は縫合は、耳当て本体(1)を被覆した後行う事も、或は先づ接着又は縫合し、耳当て本体(1)を後で嵌合させる事も任意である。

又、接着又は縫合箇所は第4図(41)図に示す如

く露出させる事も、或は (42) 図に示す如く裏返しにして内蔵させる事も任意である。

第5図は本考案による耳当てを、ヘッドホーンに装着した場合の状態を示し、弾力性を有する円板形耳当て本体(1)と装着ツバ(4)とが接する装着用間隙(6)に耳当て本体(1)の弾力性と装着ツバ(4)の柔軟性とを利用してヘッドホーン(7)の装着部を容易に挿入し装着する事ができる。

以上の通り、本考案による耳当ては耳当て本体(1)が発泡樹脂で構成され、人体の耳朵と接触する皮覆が伸縮性布(2)であるから、弾力性、吸汗性は勿論、特に通気性に富み、更に発泡樹脂材が不快な高音に対する音響フィルター効果を有する等、すぐれた実用性を発揮する耳当てである。又、耳当て本体(1)は弾力性を利用して自由に装着又は脱去する事ができるから耳当て内部の清掃や消毒も極めて容易に行う事ができる。又、極めて単純な構造であるから製造工程を著しく効率化し、価格を低廉にする事となる。

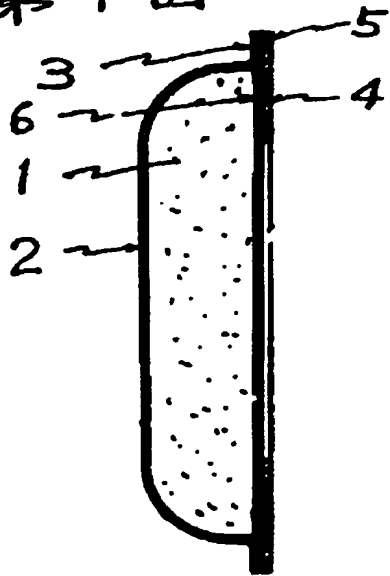
4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案によるヘッドホン用耳当ての側断面図、第2図は外視図、第3図は発泡樹脂材でなる円板形耳当て本体の平面図、第4図は耳当て本体を内蔵した状態の実施例、第5図は本考案による耳当てをヘッドホンに装着した場合の状態を示す。

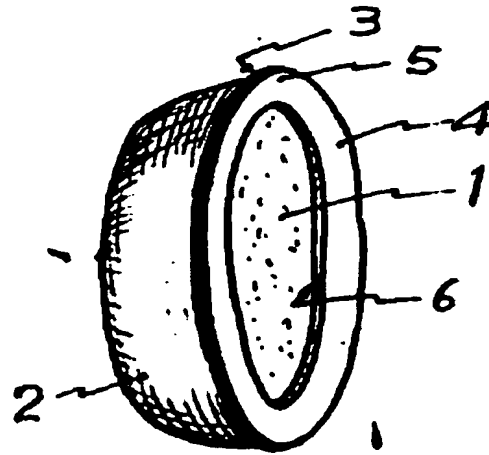
実用新案登録出願人

田 中 信 吉 

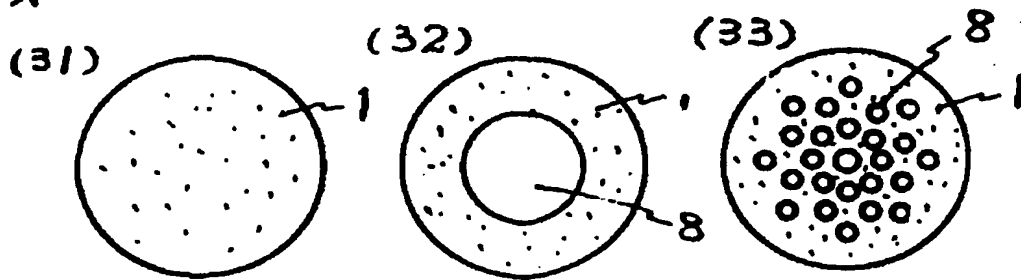
第 1 圖



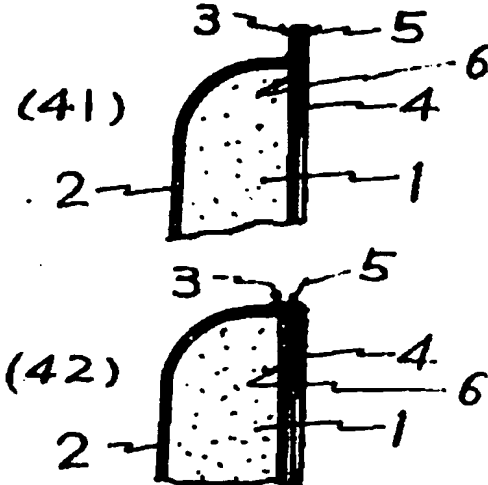
第 2 圖



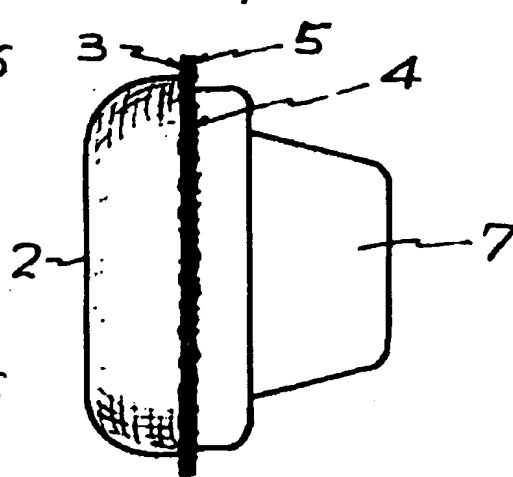
第 3 圖



第 4 圖



第 5 圖



實用新案登錄出願人

48-68523-07